

第2回 十勝川減災対策協議会 議事概要

日時：平成29年1月25日（水） 14:00～15:30

会場：道新ホール 大会議室

委員：15名

帯広開発建設部長、北海道十勝総合振興局長、釧路地方気象台長、帯広市長(副市長)、音更町長、士幌町長（副町長）、新得町長、清水町長、芽室町長、中札内村長、池田町長、幕別町長、豊頃町長、本別町長、浦幌町長（副町長）

※括弧内は代理出席

<議事内容>

- ・平成28年8月台風による降雨に伴う出水の概要についての確認
- ・幹事会開催経緯の確認
- ・第1回協議会の質問等に対する補足についての確認
- ・十勝川の減災に関する取組方針（案）についての承認
- ・次回の協議会より北海道管理区間も含め議論を進めることを了承

<主な意見>

池田町) 昨年の災害では、気象庁の高解像度降水ナウキャストが詳細で役に立ったが、現状、高解像度降水ナウキャストは前後1時間の情報しか確認できないため、6時間、10時間などの長期予測の情報が示されると助かる。

釧路地方気象台) 今すぐの改善を約束できるところではないが、要望は承った。なお、解析雨量であれば、もう少し先の予測情報は提供している。精密さという点では不十分かもしれないが、参考にさせていただくとともに、その他色々な情報を提供しているので、ご利用いただければと考える。

新得町) 対策は5年間かけて実施するのではなく、来年からできるところは早急に行っていくことが重要。取組方針の内容を実施することで昨年と同規模の災害を防ぐことができるのか。

帯広開建) 目標年度は平成32年になっているが、来年度の出水の前にやらなければならないことは先取りしてやっていきたい。昨年と同規模の洪水があった場合に対しては、被害を軽減させることとして、取組方針に社会経済被害の最小化、主体的な避難行動の促進を目標として記載している。

本別町) 取組方針を明確にしなければ、時間が経つと忘れられる場合がある。昨年の災害に対して、ハード、ソフトでそれぞれやっていなければならぬことは明らかになった。関係機関が連携して体制を作って取組を進めていきたいと考える。

帯広開建) 今後は、毎年のフォローアップにより、災害のことを忘れさせないとともに、国のハードや自治体の進捗状況を共有することが重要と考える。

池田町) 災害復旧が基本であるが、予防的な治水対策の考え方が重要と考える。降雨の観測所を増やしていき、河川の水位との連携を図ることで住民の避難等の減災に繋がるのではないかと考える。また、今回の災害を検証し、降雨と河川水位の情報を密に連携して欲しい。

帯広開建) 前回の大雨については、内部で検証を進めており、今後は、技術的にクリアできたものについて取り組んでいきたいと考える。

本別町) 国管理河川に道管理河川が合流することから、北海道開発局、北海道が連携して河川整備することが必要と考える。また、河道掘削と河畔林除去が重要と考える。さらに、ダム操作や海域での支障物除去を行い、一連で対策を行うことも重要と考える。

豊頃町) 十勝川最下流の町であり、今回の水害で厳しい状況になったが、ソフト事業の避難については、過去の水害を踏まえて、市街地の6~7割の住民が速やかに行うことができた。ヤナギが滞水の影響と考えられ、十勝川がもう少し長い時間滞水していれば、氾濫の危険があったのではないかと考えている。これを防ぐためには河畔林の伐採が必要であり、根から除去を行えば内水排除にも効果的と考えるのでお願いしたい。

芽室町) 昨年の災害では、リエゾン、TEC-FORCE に助けられた。今回の被災を受け、全国と比較して北海道の計画の雨量が低いことが分かった。また、災害復旧が改良復旧となるとのことで、大変ありがたい。

北海道は雨が降らない地域であるということで低く設定されたものが他にもあるのであれば、この協議会から国の中央に発信することも重要と考える。

今回の洪水に際して深夜の避難勧告になったことから、今の基準どおりではなく避難準備情報を活用するためのタイムラインづくりについても、国と連携しつつ進めたいと考える。

帯広開建) 降雨が局地化、激甚化するというのは学術的にも示されており、今後これをどのように北海道に当てはめていくかを議論していく必要がある。

また、タイムラインについては簡易版を今年度中に作成したいと考えており、市町村と連携して進めていきたい。

振興局) 今回の十勝川の減災に対する取組方針が了承されたところであるが、昨年の相次ぐ台風被害を踏まえ、「水防災意識社会 再構築ビジョン」の取組を都道府県管理河川に拡大することとしたことから、今後は道管理河川の 1 級河川に拡大するとともに、道管理河川の 2 級河川も対象河川としたい。